



∇ GUNDAM SHIN  
 Covered by TAKU



武装はターンエーガンダム標準のものが装備されているが、撃部分からフィールドビームドライブ制御によるフォースフィールドを発生させ、防御および衝撃波による攻撃を主体としたバトルを想定しているようだ。

プラスフィキータ粒子制御のためのアンテナや貯蔵タンク、強化バーニアの追加により各部の形状がターンエーから変化、既存のガンダムイメージへと先相違りのフェイスが逆に新鮮だ。カラーリングでは、さらに色味や細部のカラーリングをアレンジ、顔や胸などのイエローはTAKU氏がガン☆コレで使用した黒いターンエーを踏襲。





フラットな描面に着目したTAKU氏は、オリジナルには無い黒い脚を用意していた。それがオーイザーを流用した後なりの強化提案、名付けてターンエーライザーだ。他作品のメカニックではあるが、鋭角的なラインのターンエーガンダムジンと驚きの調和を現れている。だが、全てのガンダムを包含するターンエーにあっては、これも必然なのかもしれない。



# △ GUNDAM SHIN

Covered by TAKU

大空へ運動する姿も、大地を踏みしめる姿も、ターンエーにはよく似合う。頭部、両肩、胸部、フロントアーマー、ニーアーマーの形状が変更されたターンエーガンダムジンでも、その美しいさは何ら変わりよつがない。



## ターンエーガンダムジン

製作：タカ

これを跳んでくれているみんなリズベクト「尊敬する人は居るかな? ……3代目スゴツクのボーカル兼リードギターを担当するリダーだつて? それはありがとう。もちろん僕にも居るよ、リズベクトしつづ、目標にしている人。」

今回僕が組み上げたこいつはその尊敬する高校時代の恩師が生み出したものをそのまま「バク……いや、言葉が悪いね、再現したガンフらなんだ。少し前、僕は派手にロクッソロールしてしまつた。つまり順風満帆な人生の中で、初めて腹の下から挫折を味わつたのさ。ホント、色んな意味で折れた。」

長年かけて作り上げた完成形だと彼が言うターンエーはその辺のスターよりも眩しい輝きを放っていたね。何処からともなく現れた彼の知り合い……ラルさんと呼ばれていたかな。そのオジさんも絶賛していたよ。

オジさんの興奮をよそに、彼は僕にこう言うてくれた。「AKU、君自身の完成はまだまだ先なんだろ。こつて。僕は目からギタビックが落ちる思いだつたね。このターンエーに行き着くまで、彼は数えられないほどのトライアンドエラー、挑戦と失敗を繰り返してきたんだ。一度の失敗だけで捨てるんじやない、まだまだ挑戦するんだつて。言葉にするのとありきたりな青い理想を、僕の大好きなガンフを通じて伝えてくれたのさ。」

そんな彼への感謝と自分への戒めの意味も込めてこいつを再現してみたんだけど、パーツを組むたびに思い知されたよ。ターンエーガンダムをこう表現するなんて、やっぱりあの人はは敵わない……でも、これからの僕なら今は素直に、そう思えるんだよ。

そうだ、ジンという名前の意味は、最後まで教えて貰えなかった。ビルダーである彼の名前から取ったか、真のターンエーなのか、あるいは新なのか、神、心……進それはこいつを見たらが思い思いに感じれば良いんだ、さうね。



たく……あの頃の記憶が、生れながらは、腕裏にガンダムという作品が、僕の心を、燃やしている。あの頃の記憶が、生れながらは、腕裏にガンダムという作品が、僕の心を、燃やしている。あの頃の記憶が、生れながらは、腕裏にガンダムという作品が、僕の心を、燃やしている。

# メカデザインチーム・アストレイズによる ターンエーガンダムシン(オリジナル)の スペシャルイラストを公開!!!

もはや恒例ともいえる再現設定画の紹介。今回はどこから情報を聞きつけたのか、編集部我突然現れた紳士の提案により、半ば強引に描き下ろすイラストが誕生した。巻き込まれたアストレイズの皆さんには感謝しかありません。紳士……いや、ラルさんにはキツク言っておきますので。

